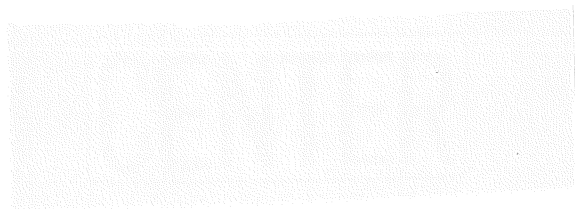
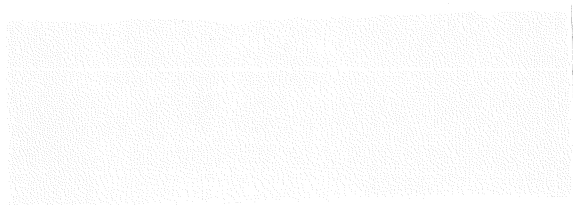


YAMAHA



DSR-50PRO

NATURAL SOUND DIGITAL SURROUND DECODER

取扱説明書


ご使用前に必ずお読みください。

YAMAHA DSR- 50PRO

このたびは、YAMAHAデジタル・サラウンド・デコーダDSR-50PROをお買い求めいただきまして、まことにありがとうございました。

DSR-50PROの優れた性能を充分に発揮させ、未長くご愛用いただくために、この取扱説明書を、ご使用前にぜひお読みくださいますよう、お願いいたします。

またこの取扱説明書は、お読みになった後も、保証書とともに大切に保管してください。



これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

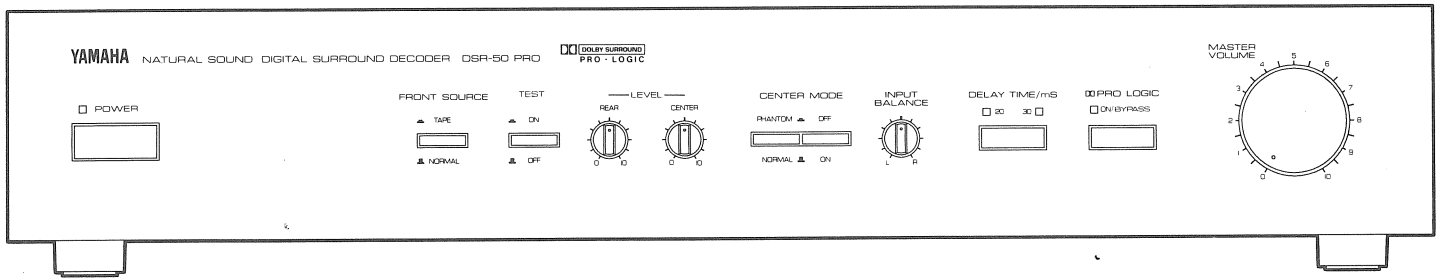
音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

目次

特長.....	2	再生のまえに.....	13
ご使用のまえに.....	2	フロントパネル各部の名称とはたらき.....	13
豊かなAVライフのために.....	3	再生の準備.....	14
ドルビー・プロロジック・サラウンドとは.....	4	再生のしかた.....	16
スピーカのレイアウトについて.....	5	ドルビー・プロロジック・サラウンド再生.....	16
接続のしかた.....	6	通常ステレオ再生.....	16
リアパネル各部の名称とはたらき.....	6	録音のしかた.....	16
接続のしかた.....	7	故障かなと思ったら.....	17
その他の接続.....	11	参考仕様.....	17
		ヤマハホットラインサービスネットワーク.....	18

特長



DSR-50PROはヤマハのデジタル技術を駆使して開発されたデジタル・サラウンド・デコーダです。

本機に搭載したドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダは、ビデオソフトを始めとするドルビー・サラウンドでエンコード(録音)されたソースの再生時に、その威力をいかに発揮することができます。

●豊かな臨場感

ドルビー・プロロジック・デコーダの特長である、方向性強調回路の働きにより、音像の移動感、チャンネルセパレーションに優れた再生をすることができます。また、新たに付加されたセンターチャンネルは、映画などのビデオソフト再生時にはセリフ部分をはっきりと中央に定位させますので、画面への集中感が得られます。

●デジタルディレイLSIを搭載

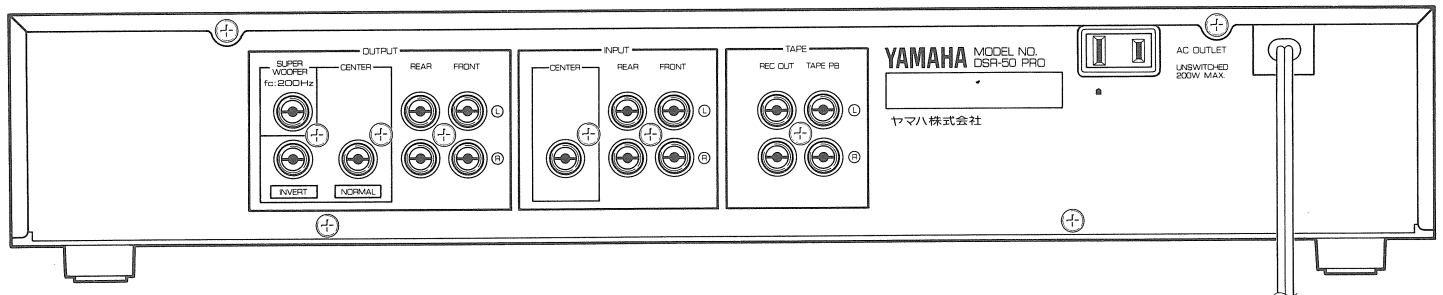
SNに優れた、新開発のデジタル・ディレイLSIを搭載。ディレイタイムは、再生するソースやリスニングルームの状況により、選択することができます。

●マスターボリュームコントロール装備

各チャンネルレベルの調整後は、マスターボリュームでシステム全体の音量をコントロールすることができます。

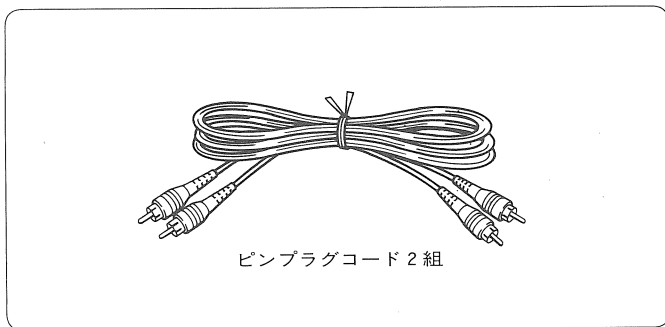
- **DOLBY SURROUND PRO LOGIC** はドルビーラポラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。

ドルビー、DOLBYおよびダブルD記号 **DD** はドルビーラポラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。



ご使用のまえに

■付属品を確認してください。



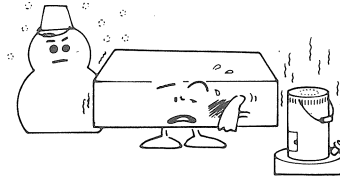
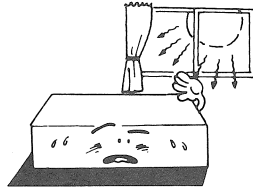
■設置場所について

本機を発熱をともなうアンプの上などに設置したり、通気性の悪いラックなどに入れてご使用になりますと、本機に悪影響があります。ご使用の際は、必ず通気性の良い場所に設置してください。

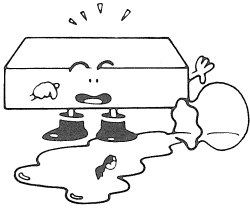
豊かなAVライフのために

高温・低温はさけて！

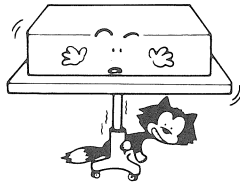
窓際や直射日光の当たる場所・暖房器具のそばなど極端に暑い場所(周囲温度40℃以上)・温度の特に低い場所(周囲温度-5℃以下)・湿度の多い場所(湿度90%以上)は、さけてください。



ほこり・水気をさけて！

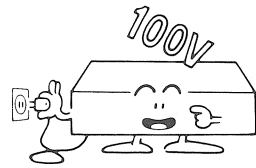


不安定な場所をさけて！

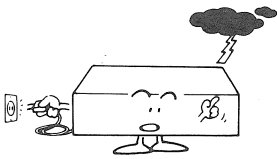


国内のみ使用可

家庭用電源コンセント
AC100V

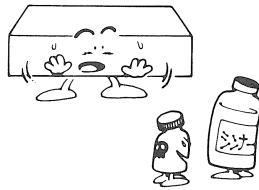


雷が近づいたら

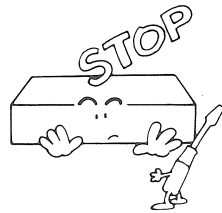


早めに電源プラグをコンセントから抜いてください。

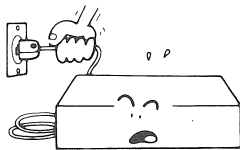
薬物厳禁



開けないで！

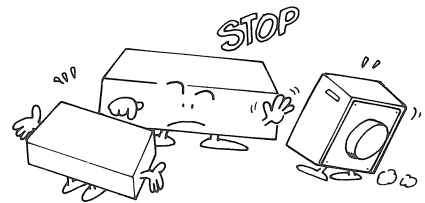


引っぱらないで！



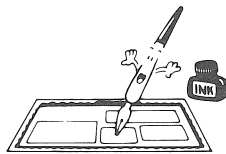
チューナやテレビと近付けない！

本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器に障害を与える場合があります。チューナやテレビなどとはできるだけ離して設置してください。障害をなくすために、チューナやテレビのアンテナには外部アンテナを使用し、同軸ケーブルで配線することをお勧めします。

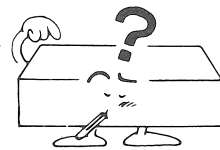


保証書の手続きを！

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店名、購入日などがないと、保証期間中でも万が一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、充分ご注意ください。



こわれた？



17ページの「故障かなと思ったら」をご覧ください。

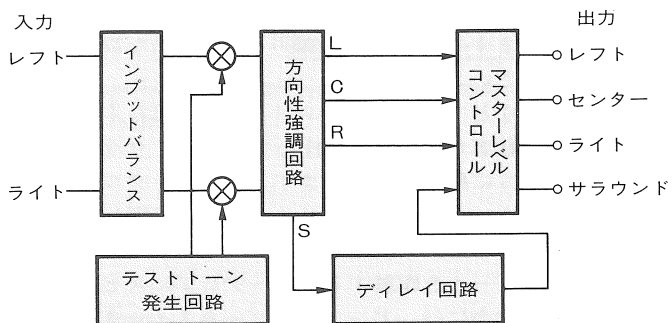
ドルビー・プロロジック・サラウンドとは

■ドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダとは

劇場など業務用に使われているドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダと同様の働きをするデコーダを搭載したDSR-50PRO…。

本機は、これまで一般的に使われていたパッシブタイプの「ドルビー・サラウンド」とは異なり、アクティブタイプと呼ばれる新しい回路構成から成り立つ「ドルビー・プロロジック・サラウンド回路」を採用したサラウンド・デコーダです。

「ドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダの基本構成」



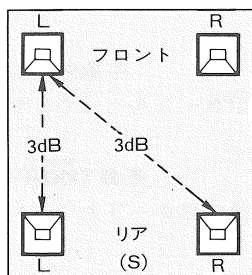
■方向性強調回路とは

ドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダのもつ最も大きな特長に「方向性強調回路」があります。

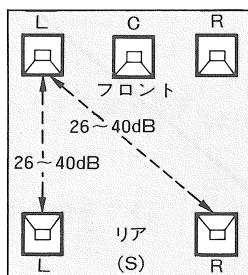
その動作原理を簡単に説明しますと、デコーダへ入力されたL, R信号はL, R, (L+R), (L-R)の間でレベルの優劣判定が行われ、その結果、各チャンネルごとのコントロール電圧が決定されます。次に8chのVCAでコントロール電圧に応じた信号のレベル制御が行われ、その後マトリクス回路を経てL・R・C・Sの4チャンネルの方向性の強調された信号が出力されます。従って、従来の「ドルビー・サラウンド」がL・R・Sの3チャンネル再生が基本であったものに対し、ドルビー・プロロジック・サラウンドでは、L・R・C・Sの4チャンネル再生が基本となっています。

「方向性強調回路」の優れた点には、まず、各チャンネル間のセパレーションの良さがあげられます。従来のパッシブタイプのデコーダではセパレーションが3dB程度であったものに対し、本機では約26~40dBへと圧倒的に向上しています。このため、音像の前後左右への移動感がよりクリアに、そしてダイナミックに得られるようになりました。

ドルビーサラウンドデコーダ
(パッシブ・デコーダ)



ドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダ
(アクティブ・デコーダ)



加えて、L・R・C・Sの各信号を独立してコントロールする「方向性強調回路」では、音像をより鮮明に定位させることができるようになりました。例えば、映画のセリフ部分などセンターから出るべき音は、従来の「ドルビー・サラウンド」がL・Rの単純な合成で創っていたものに対し、ドルビー・プロロジック・サラウンドでは、独立したC(センター)チャンネルに定位することになりますので、これまでにない画面への集中感が得られることになります。

また、音像がセンターにある場合はL/Rの音量レベルが下がり、さらに音像がRに移る場合はセンターとLの音量レベルが下がるなど、音の移動感は際立っています。この点など、まさに音像の「方向性」を「強調」する「回路」設計となっています。

■システムに合わせて使えるCENTER MODEスイッチ

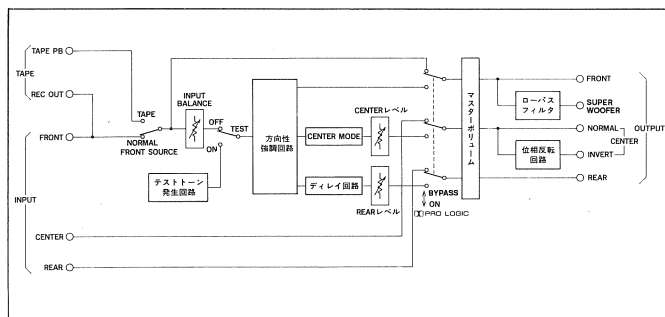
ドルビー・プロロジック・サラウンド再生時にはセンタースピーカの役割は重要です。本機は様々なリスニングルームの状況を想定し、CENTER MODEスイッチを設けました。

NORMAL : センタースピーカを設置する場合のモードです。比較的小型のスピーカが使用できるように、100 Hz以下のセンターチャンネルの信号成分は左右のメインスピーカへ振り分けられます。

PHANTOM : センタースピーカを設置しない場合のモードです。この位置ではセンターチャンネルの信号成分はL, Rのメインスピーカに振り分けられて出力されます。この場合もドルビー・プロロジック・サラウンドを充分お楽しみいただけます。

■テストトーンジェネレータ内蔵

ドルビー・プロロジック・サラウンド再生を行うためには、各チャンネル間のバランス調整が重要です。そこで、本機は調整の際に便利なテストトーンジェネレータ(発振器)を内蔵しました。リスニングポジションでテストトーンが各チャンネルとも同じ音量になるように調整すればバランス調整は完了です。



スピーカのレイアウトについて

スピーカについて

従来の2チャンネルステレオで使用する2台のスピーカ（以下メインスピーカと呼びます）に加えて、ドルビー・プロロジック・サラウンド効果を最大限に発揮させるための、センタースピーカ、そしてリスナーの両サイド（または後方）に設置するサラウンドスピーカの5台のスピーカを使用するのが理想です。

しかしリスニングルームの状況によりセンタースピーカを設置するのが困難な場合は、センタースピーカを使用しない4台のスピーカ構成でも、本機のサラウンド効果を充分にお楽しみいただけます。

- メイン、センター、サラウンドの各スピーカは音質の似たものをお使いください。
- センタースピーカをテレビの近くに設置して使用すると、テレビの画面が乱れる場合があります。このようなときはテレビとスピーカの距離を離すか、スピーカを防磁タイプのものに取り替えてください。

スピーカの設置場所について

メインスピーカ：従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカをリスニングポジションから等距離に設置します。またテレビを設置しているときは、左右のスピーカとテレビの距離を等しく設置してください。

センタースピーカ：テレビを設置している場合は、できるだけテレビ画面に近いところ（例えばテレビの上または下、あるいはテレビの後方）に設置してください。

スムーズな音の移動感と定位感を得るために、メインスピーカの中・高域ユニットの高さにセンタースピーカを合わせることをお勧めします。

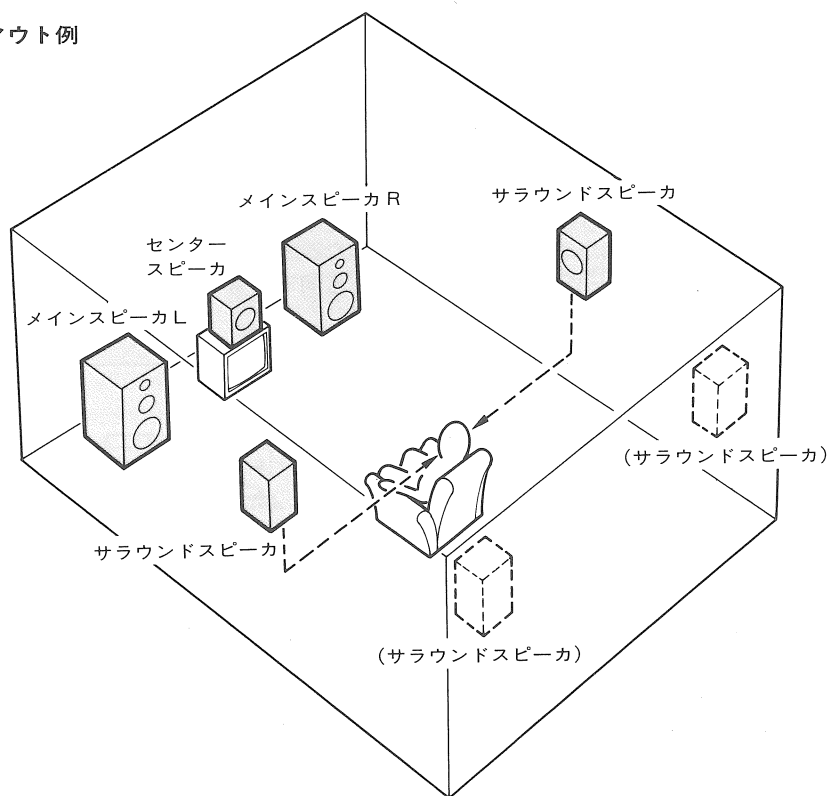
サラウンドスピーカ：原則的にはリスナーの両サイドの壁にリスナーに向けて平行に設置します。高さは床から1.8m位が適当です。しかし再生するソースによって、サラウンド効果が異なりますので、試聴を繰り返し、適当な設置場所を選定してください。

実際の映画館などでは、サラウンドスピーカはたくさんの数が設置され、観客がどの座席に座っても等しくサラウンド感が得られるように配慮されています。リスニングルームにおいても、サラウンドスピーカはリスナーを取り囲むように、偶数個設置するのも効果的です。

サラウンドスピーカを駆動するパワーアンプにスピーカA/B端子がある場合には、アンプのスピーカスイッチをA+Bの位置にして、偶数個のスピーカをご使用になるのも、ひとつの方法です。

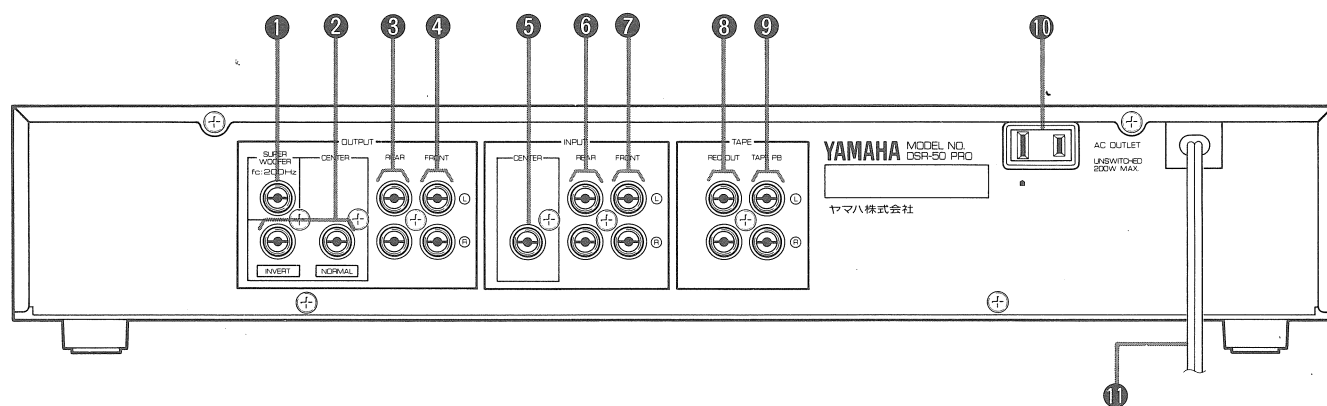
- その際は、スピーカの合成インピーダンスに充分にご注意ください。

スピーカのレイアウト例



接続のしかた

リアパネル各部の名称とはたらき



アウトプット OUTPUT

- ① ^{スーパー} ^{ウーファー} SUPER WOOFER端子
200Hz以下の低域信号のみ出力する端子です。重低音を補う場合など、スーパーウーファー用の出力端子として使用することができます。
- ② ^{センター} CENTER端子
センタースピーカを駆動するアンプへ信号を出力する端子で、^{ノーマル} NORMALは通常の位相(正相)で出力され、^{インバート} INVERTは $\oplus\ominus$ 逆相で出力されます。
- ③ ^{リア} REAR端子
サラウンドスピーカを駆動するアンプへ信号を出力する端子です。
- ④ ^{フロント} FRONT端子
メインスピーカを駆動するアンプへ信号を出力する端子です。

インプット INPUT

- ⑤ ^{センター} CENTER端子
センタースピーカ用の信号(モノラル信号)を入力する端子です。
- ⑥ ^{リア} REAR端子
サラウンドスピーカ用の信号を入力する端子です。
- ⑦ ^{フロント} FRONT端子
メインスピーカ用の信号を入力する端子です。

テープ TAPE

- ⑧ ^{レック} ^{アウト} REC OUT端子
テープデッキを本機に接続する場合、テープデッキのライン入力(LINE IN)端子と接続する端子です。
- ⑨ ^{テープ} ^{プレイバック} TAPE PB端子
テープデッキを本機に接続する場合、テープデッキのライン出力(LINE OUT)端子と接続する端子です。

その他

- ⑩ ^{エーシー} ^{アウトレット} AC OUTLET
本機の^{パワー} POWERスイッチのON/OFFとは無関係に、消費電力が200Wまでのオーディオ機器に電源を供給することができます。
- ⑪ 電源コード
AC100Vの家庭用電源コンセントまたはアンプのACアウトレットに接続します。

接続のしかた

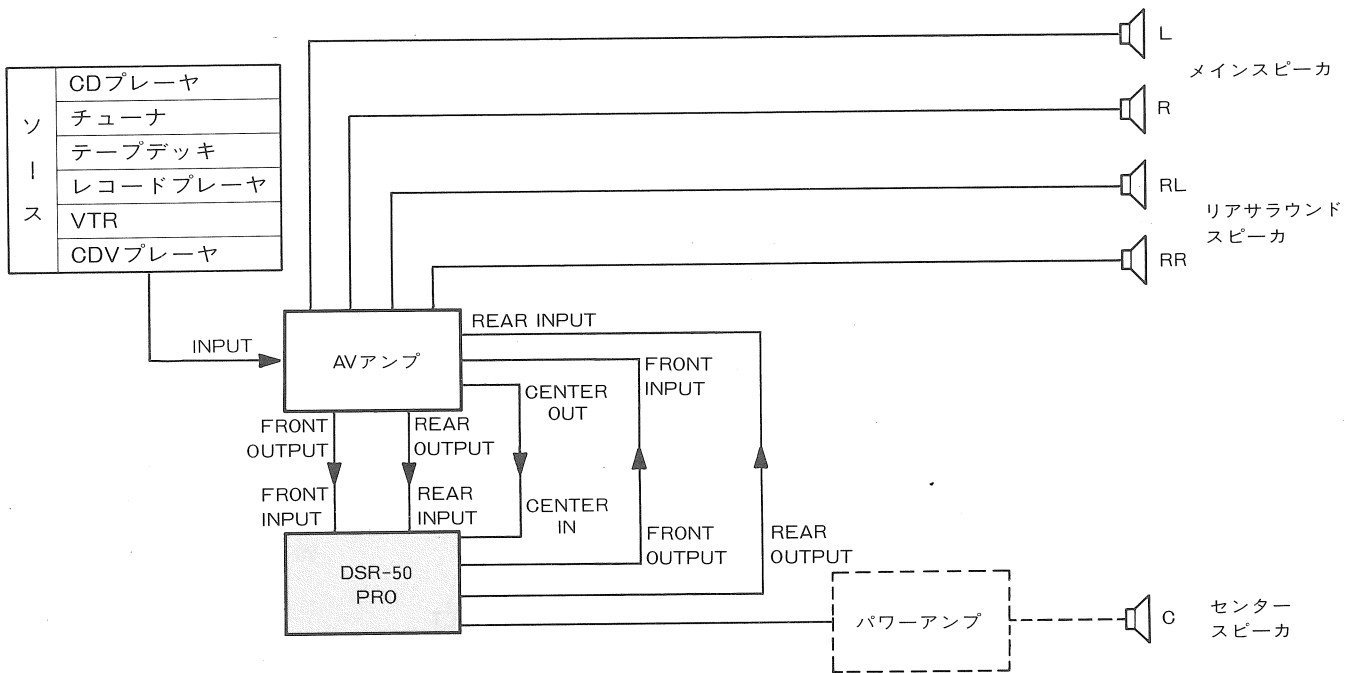
接続のしかた

接続の際のご注意

- 電源スイッチ……本機および各機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源プラグ……接続に誤りがないことを確認してから、電源コンセントに差し込んでください。
- 接続コード……各機器のL(左チャンネル)・R(右チャンネル)を確認して、正しく確実に接続してください。
- 設置……本機が他の機器(チューナなど)に妨害を与えるようなときは、本機と他のセットとの距離を少し離して設置してください。

■本機をAVアンプ(AVX-100など)と組み合わせるとき

AVアンプのFRONTおよびREAR入出力端子を使って本機と接続します。



①本機のINPUT FRONT端子とAVアンプのフロント側のプリアウト(FRONT端子)を接続します。

②本機のINPUT REAR端子とAVアンプのリア側のプリアウト(REAR端子)を接続します。

③本機のINPUT CENTER端子とAVアンプのセンター出力(ENHANCED CENTER NORMAL)端子を接続します。

- センタースピーカーを設置しない場合は、この接続は必要ありません。

④本機のOUTPUT FRONT端子とAVアンプのフロントパワーアンプ入力(MAIN IN A)端子を接続します。

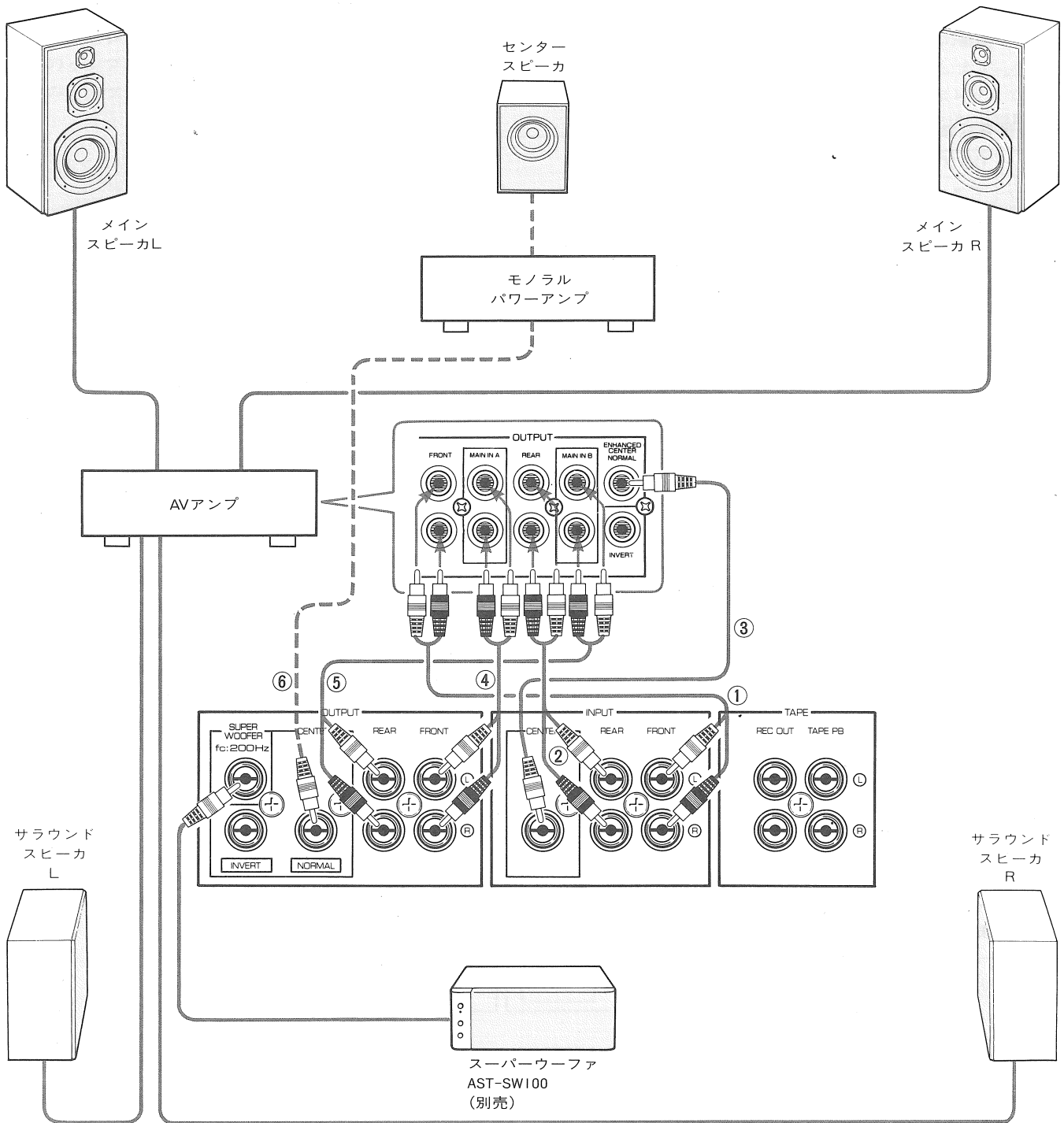
⑤本機のOUTPUT REAR端子とAVアンプのリアパワーアンプ入力(MAIN IN B)端子を接続します。

⑥本機のOUTPUT CENTER NORMAL端子とセンタースピーカーを駆動するパワーアンプの入力端子(INPUT)を接続します。

- センタースピーカーを設置しない場合は、この接続は必要ありません。

⑦本機の電源プラグをAC100Vの家庭用電源コンセントまたはアンプの電源コンセント(AC OUTLET)に接続します。

本機の消費電力は6Wですが、本機のACアウトレット(200W以下)に他の機器を接続した場合は、その機器の消費電力と本機の6Wとの合計が、本機の消費電力となります。接続する電源コンセントの供給電力を確認の上、必ず指定範囲内で使用してください。



● お手持ちのシステムにより端子名などが異なります。接続の際はアンプの取扱説明書もご参照ください。

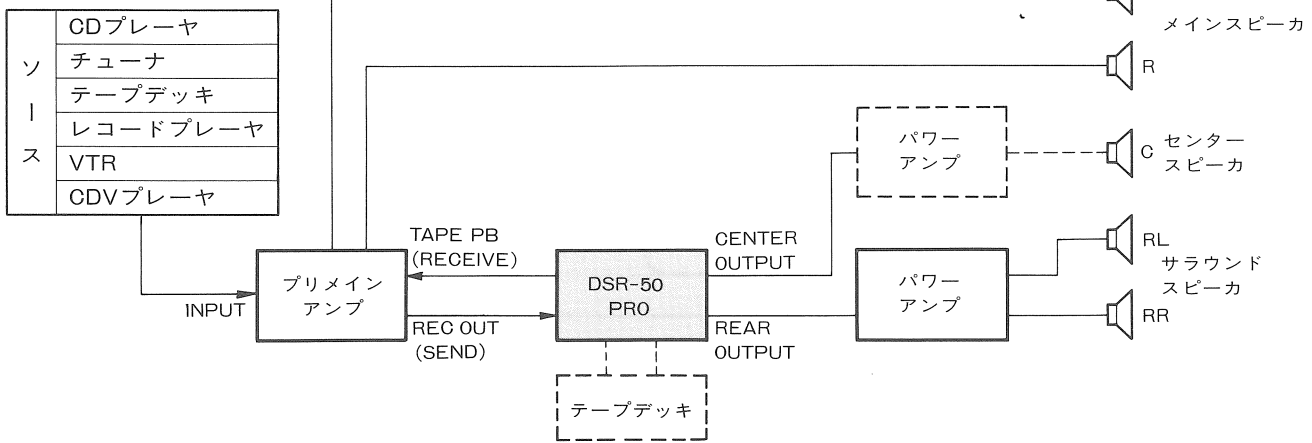
接続のしかた

■プリメインアンプと組み合わせるとき

プリメインアンプのテープ端子 (TAPE PB/REC OUT)、またはアクセサリ端子* (SEND/RECEIVE*) に本機を接続します。

*アクセサリ (ACCESSORY) 端子はヤマハの一部のアンプに装備されている端子です。

●信号経路



①本機のINPUT FRONT端子とプリメインアンプのテープ端子(REC OUT)、またはアクセサリ端子(SEND)を接続します。

●テープ端子に空きがない場合は、テープデッキをプリメインアンプから外し、本機のTAPE端子に接続してください。(詳細は12ページを参照してください。)

②本機のOUTPUT FRONT端子とプリメインアンプのテープ端子(TAPE PB)、またはアクセサリ端子(RECEIVE)を接続します。

③本機のOUTPUT CENTER NORMAL 端子とセンタースピーカを駆動するパワーアンプの入力端子(INPUT)を接続します。

●センタースピーカを設置しない場合は、この接続は必要ありません。

④本機のOUTPUT REAR端子とサラウンドスピーカを駆動するパワーアンプの入力端子(INPUT)を接続します。

⑤本機の電源プラグを AC100V の家庭用電源コンセントまたはアンプの電源コンセントに接続します。

本機の消費電力は6Wですが、本機のACアウトレット(200W以下)に、他の機器を接続した場合は、その機器の消費電力と本機の6Wとの合計が、本機の消費電力となります。接続するコンセントの供給電力を確認の上、必ず指定範囲内で使用してください。

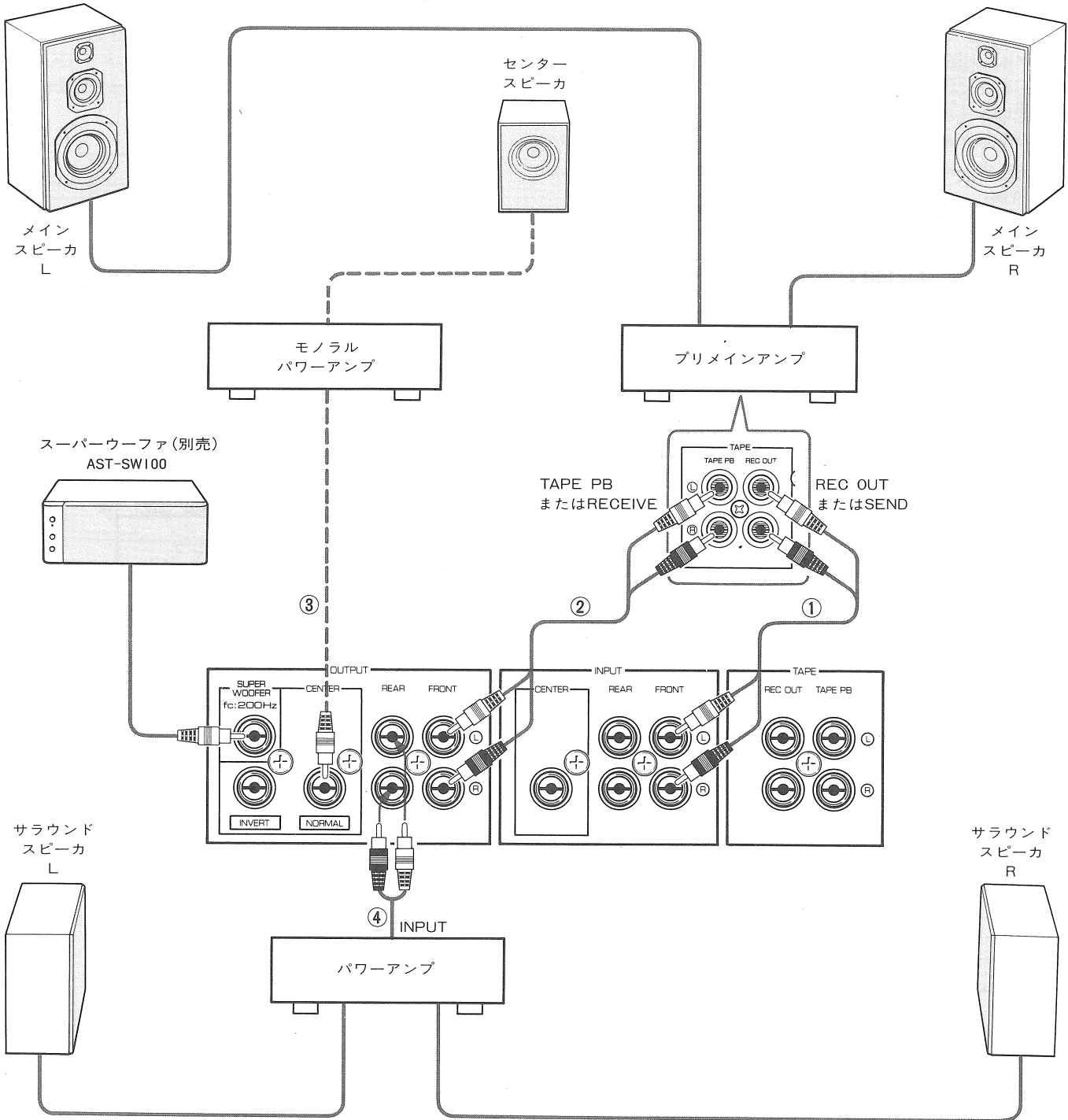
■テープ端子に本機を接続したときのみ、アンプを下記のように操作してください。
 (SEND, RECEIVE端子を使って接続した場合は、下記の操作は必要ありません)。

●REC OUTセレクトのあるアンプの場合

- 1 アンプのインプットセクタを“TAPE”にします。
- 2 本機への入力ソースはアンプのREC OUTセクタで選びます。

●TAPE MONITORスイッチのあるアンプの場合

- 1 TAPE MONITORスイッチを“ON”にします。
 - 2 本機への入力ソースはアンプのINPUTセクタで選びます。
- *アンプの操作のしかたの詳細はアンプの取扱説明書をご参照ください。




●お手持ちのシステムにより端子名などが異なります。接続の際はアンプの取扱説明書もご参照ください。

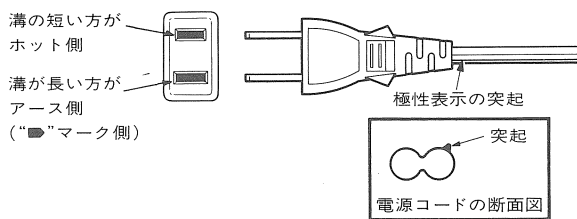
その他の接続

■電源コードの接続

すべての接続に誤りのないことを確認してから、本機の電源コードを、家庭用ACコンセントか、アンプのACアウトレットに接続してください。

本機の電源コードは、極性表示がされていますので次の方法で接続することをお奨めします。

電源コードの突起側(アース)をコンセントの溝の長い方に合わせて差し込みます。(ヤマハ製アンプのACアウトレットには“”のマークがついています。)

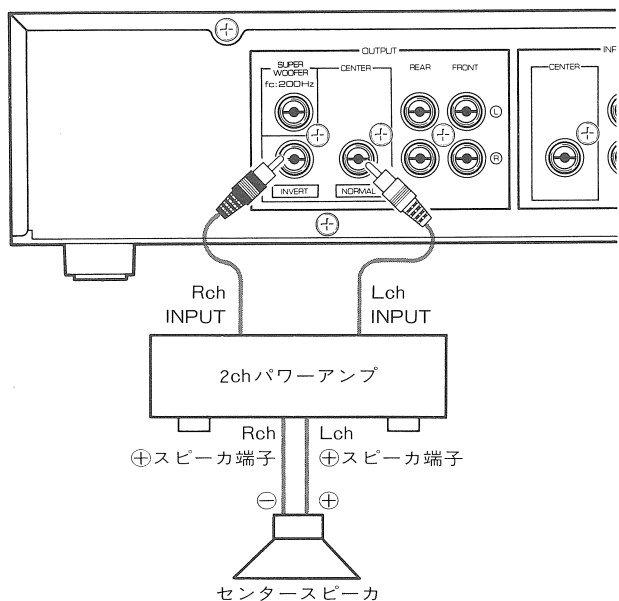


■センタースピーカをBTL接続で使用する場合

センタースピーカ駆動用のアンプにBTL接続可能なパワーアンプを使用する場合は、センタースピーカをBTL接続することが可能です。

BTL接続では、強大なパワーが得られるとともに音質的にも有利です。

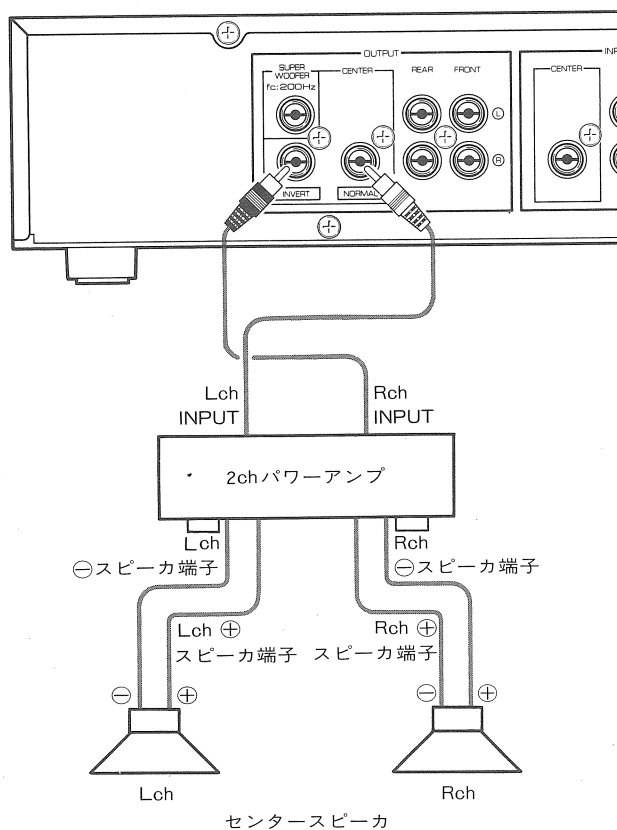
- 1 本機のOUTPUT CENTER NORMAL 端子とパワーアンプの入力端子(Lチャンネル)を接続します。
- 2 本機のOUTPUT CENTER INVERT 端子とパワーアンプの入力端子(Rチャンネル)を接続します。
- 3 センタースピーカをパワーアンプのスピーカ端子に接続します。このとき接続はBTL接続にします。(BTL接続について詳しくはパワーアンプの取扱説明書をご覧ください。)



■センタースピーカを2台使用する場合

2chのパワーアンプを使用し、センタースピーカを2台接続できます。

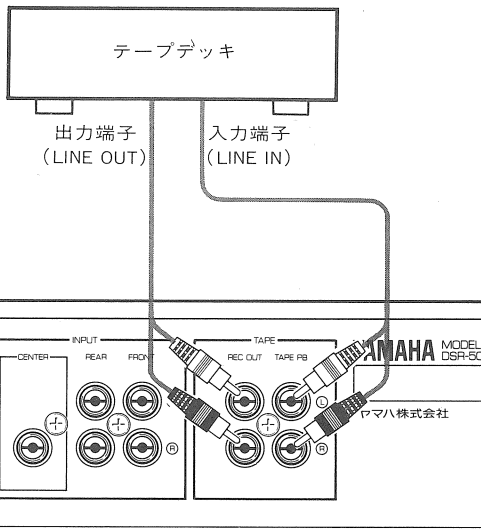
- 1 本機のOUTPUT CENTER NORMAL 端子とパワーアンプの入力端子(Lチャンネル)を接続します。
- 2 本機のOUTPUT CENTER INVERT 端子とパワーアンプの入力端子(Rチャンネル)を接続します。
- 3 Lチャンネルのセンタースピーカをスピーカ端子のL側に正相(通常のまま)で接続します。
- 4 Rチャンネルのセンタースピーカをスピーカ端子のR側に逆相(+、-を逆)で接続します。



■テープデッキの接続

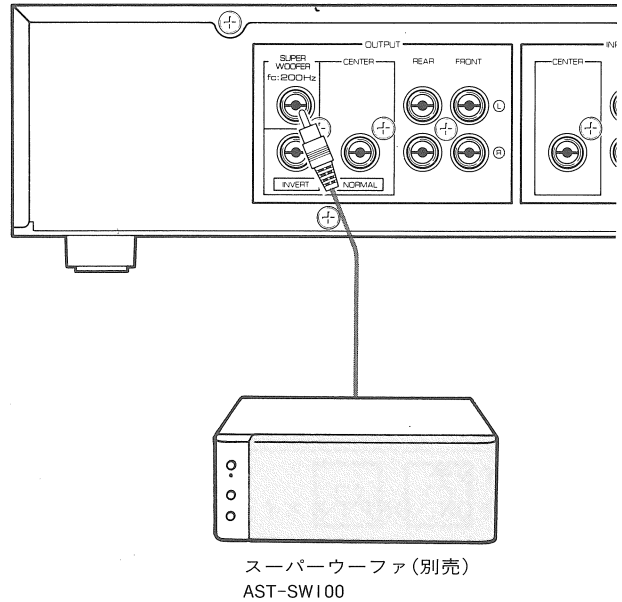
本機にテープデッキを接続しますと、そのデッキをソースとしたサラウンド再生ができます。また本機の入力ソースを録音することができます。ただし、サラウンド・デコードされた音を録音することはできません。

- 1 本機の TAPE PB 端子とテープデッキの出力端子 (LINE OUT) を接続します。
- 2 本機の REC OUT 端子とテープデッキの入力端子 (LINE IN) を接続します。



■スーパーウーファの接続


SUPER WOOFER端子にアンプ内蔵のスーパーウーファなどを接続しますと、重低音を補った再生をすることができます。



スーパーウーファ (別売)
AST-SW100

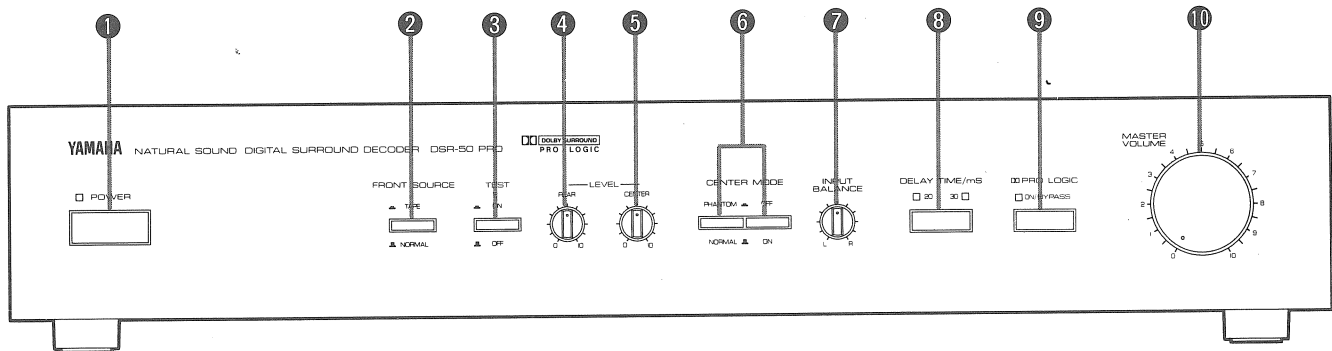
■ACアウトレットの接続

他のAV機器に電源を供給するコンセントです。本機のPOWERスイッチのON/OFFには関係なく、本機の消費電力6Wと合計して最大200Wまで供給することができます。

- 本機のACアウトレットに記されている“”は、電源トランスの巻き始め側を示しています。このマークは、接続する各機器と電源の極性を合わせるためのものです。極性を合わせなくても使用上は影響ありませんが、より良い音質を得るためには、極性を合わせておかれることをお勧めします。

再生のまえに

フロントパネルの各部の名称とはたらき



① POWERスイッチ

本機の電源をON、OFFするスイッチです。

② FRONT SOURCEスイッチ

通常は“NORMAL”の位置で使用します。本機に接続したテープデッキを再生するときに“TAPE”にします。

③ TESTスイッチ

テスト信号をON、OFFするスイッチです。テスト信号は接続した各スピーカの音量バランスをチェックするときに使用します。

④ REARレベルコントロール

サラウンドスピーカの音量レベルを調整します。

⑤ CENTERレベルコントロール

センタースピーカの音量レベルを調整します。

⑥ CENTER MODEスイッチ

PHANTOM: センタースピーカを設置したときは“NORMAL”/NORMAL の位置にします。センタースピーカを設置しないときは“PHANTOM”の位置にします。PHANTOMの位置にすると、デコードされたセンターのチャンネル成分は、左右のスピーカに振り分けられて出力されます。

通常は“ON”の位置で使用します。

⑦ INPUT BALANCE調整を行なうときのみ“OFF”の位置にします。

⑦ INPUT BALANCEコントロール

⑥ CENTER MODEスイッチを“OFF”の位置にし、このINPUT BALANCEコントロールを調整して、会話などセンターから出る音が一番小さくなるように合わせます。

⑧ DELAY TIMEスイッチ

ディレイタイムを選択するスイッチです。リスニングルームの状況や再生するソースの種類に合わせて臨場感や音の移動感を調整することができます。

⑨ PRO LOGICスイッチ

ドルビー・プロロジック・サラウンド再生をするときは、このスイッチを押してインジケータを点灯させます。(ONの状態)
通常のステレオ再生をするときは、このスイッチを押してインジケータが消えた状態にします。(PASSの状態)

⑩ MASTER VOLUMEコントロール

各スピーカの音量を同時に調整します。

再生の準備

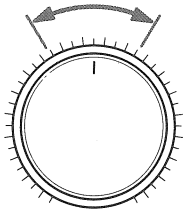
メインの音とサラウンドの音、そしてセンターの音のバランスがとれていないと良いサラウンド効果は得られません。下記の手順に従って各スピーカの音量バランスを調整してください。

1. 電源の投入

- ①本機およびご使用になる機器すべての電源を“ON”にします。
- ②万一の事故を防ぐため、本機を含めすべてのボリュームを低めにセットします。

2. プリメインアンプのボリューム設定

- ①接続しているアンプを操作してソースを本機に入力します。
- ②ソースを再生しながら、アンプのボリュームを-16dB ~ -20dBにセットします。
 - ボリュームに目盛りの表示がない場合は、11時~1時付近にセットします。

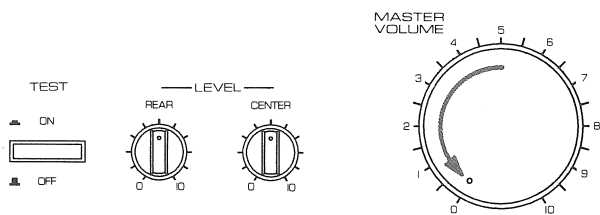


3. 各スピーカの音量バランスの調整

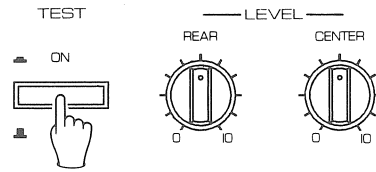
本機内蔵の発振機からのテストトーンを使い、メイン、センター、サラウンドの各スピーカの音量バランスを調整します。

●調整の前に

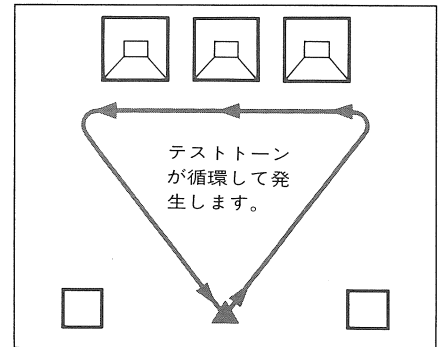
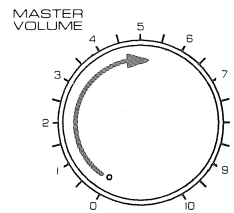
MASTER VOLUME.....最小
LEVEL (CENTER, REAR) 中央の位置にセットしておきます。



①TESTスイッチを押します。

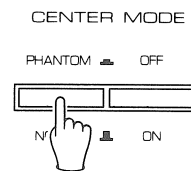


- ②本機のMASTER VOLUME を右に回しますと、テストトーンが右側のメインスピーカ→センタースピーカ→左側のメインスピーカ→サラウンドスピーカの順番に、約2秒間ずつ発生します。



* サラウンド(リア)スピーカのテストトーンは左右のスピーカから同時に発生します。

- センタースピーカを設置していない場合は、CENTER MODEスイッチを“PHANTOM”の位置にしてから調整してください。
センタースピーカ用のテストトーンは左右のメインスピーカに振り分けられて出力されます。




再生のまえに

- ③ テストトーンを聞きながら、リスニングポジションにおいてすべてのスピーカからの音量が同じになるように、各スピーカを駆動している各アンプのボリュームを調整します。
- センタースピーカからの音量レベルは本機のCENTERレベルコントロールで微調整することができます。
 - サラウンドスピーカからの音量レベルは本機のREARレベルコントロールで微調整することができます。
 - サラウンド側の音量を最大にしても、メインスピーカとバランスが取れないときは……
 - プリメインアンプのボリュームを、バランスが取れる位置まで下げてください。
- ④ 調整が終わりましたらTESTスイッチを押して、テストトーンの発生を止めます。

これで再生の準備は完了しました。これからの音量調整は必ず本機のMASTER VOLUMEで行います。接続している機器のボリュームはバランスのとれた状態にセットされていますので、動かさないでください。

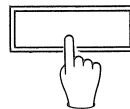
4. 入力バランスの調整

ドルビー・プロロジック・デコーダの性能をフルにいかし、効果的なサラウンド再生を行うために、L、Rの入力バランス調整を行います。

- ①  PRO LOGICスイッチを押して“ON”にします。スイッチのインジケータが点灯します。

PRO LOGIC

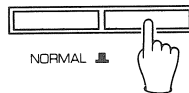
ON/PASS



- ② CENTER MODEスイッチを“OFF”の位置にします。

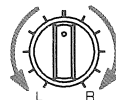
CENTER MODE

PHANTOM OFF



- ③ ドルビーエンコードされたソースを再生します。
- ④ 左右のメインスピーカから出るセンターの音(会話など)が最小になるようにINPUT BALANCEコントロールを回して調整します。

INPUT BALANCE



- ⑤ 調整が終わりましたら、CENTER MODEスイッチを“ON”の位置に戻します。

再生のしかた

ドルビー・プロロジック・サラウンド再生

- 1 接続した各機器の電源を入れます。
- 2 PRO LOGICスイッチを押します。
スイッチ上のインジケータが点灯します。
- 3 プリメインアンプ、プリアンプを操作して、本機にソースを入力します。
 - 本機のリアパネルに接続したテープデッキを再生するときにはFRONT SOURCEスイッチを押して“ON”にします。
- 4 MASTER VOLUMEで音量を調整します。
- 5 必要に応じてDELAY TIMEスイッチを使ってディレイタイムを選択してください。
- 6 再生するソースによりセンターおよびエフェクトの音量を変えたいときは、CENTERおよびREARのレベルコントロールで調整することができます。

ドルビー・プロロジック・サラウンドはモノラルのソースには対応しません。モノラルソース再生時にはサラウンドスピーカから音は出ません。

通常のスtereo再生

- PRO LOGICスイッチをBYPASSにしますと、通常のスtereo再生をすることができます。
- ステレオ再生時にも本機の電源は必ず入れてください。

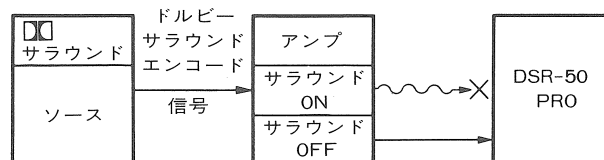
録音のしかた

本機のREC OUT端子には常時入力信号が出力されていますので、接続したテープデッキを録音状態にしますと本機への入力信号を録音することができます。
ただし、ドルビー・プロロジック・サラウンドの効果が付加された信号を録音することはできません。

サラウンド機能内蔵のアンプをご使用の場合の注意

(ヤマハAVC-50/30, SR-50, SR-100X, AVX-100などのアンプをご使用の場合)

本機のドルビー・プロロジック・デコーダを正しく動作させるためには、エンコードされた信号(ソース信号)を、そのまま本機に入力させる必要があります。



本機へのメイン入力信号が、途中でアンプ内蔵のサラウンド機能により処理が行われていると、ドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダは正しく動作できなくなります。

従って、本機でドルビー・プロロジック・サラウンド再生を行う場合は、他のサラウンド機能と同時にお使いにならないように、ご注意ください。

故障かなと思ったら

本機が正常に動作しないときは、下記の事項をご確認ください。それでも正常に動作しない、あるいは下記以外で何か異常が認められた場合は、本機のPOWERスイッチを切り、電源プラグをコンセントから外して、お買い上げ店または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点宛、お問い合わせ、サービスをご依頼ください。

どんな状態ですか	ここが原因	こうすればOKです
POWERスイッチを押しても電源が入らない	電源プラグの差し込みが不完全	電源プラグを、コンセントにしっかり差し込みなおしてください
ブーンというハム音が出る	接続コードの接続不良	接続コードをしっかりと差し込みなおしてください
音が全く出ない	本機の電源をOFFにしている	本機の電源をONにします
	入出力コードの接続が不完全または間違っている	接続を確認してください
	入力ソースの選択方法が間違っている	本機およびアンプのスイッチを確認してください
	アンプのセレクタやスイッチを間違えてセットしている	アンプの操作方法を確認してください
不自然なサラウンド再生となる	接続したアンプのサラウンドモードがONになっている	本機でドルビー・プロロジック・サラウンド再生をするときは、他のサラウンドモードはOFFにしてください
サラウンド効果の付加された音が録音されない	TAPE端子に接続したテープデッキで、サラウンド効果の付加された音を録音することはできません。	
本機を使用していると、チューナーやテレビなどから雑音が出る	本機とその機器が近付いている	本機はデジタル信号を扱いますので、電波を扱う機器と離して設置してください

参考仕様

■型式 ドルビー・プロロジック・サラウンド・デコーダ

■オーディオセクション (ドルビー・サラウンド・オフ)
 ・全高調波歪率(1kHz) 0.02%(1Vrms)
 ・残留ノイズ 20 μ V(IHF A)
 ・周波数特性 10~50kHz(+0, -3dB)

■サラウンド・デコーダセクション
 ・デジタルディレイ、サンプリング周波数 49.7kHz
 (浮動小数点14ビット)
 ・デジタルディレイタイム 20ms, 30ms
 ・許容入力 2Vrms
 ・S/N 76dB

■入・出力セクション

・入力インピーダンス 10k Ω
 ・出力インピーダンス メインチャンネル 1k Ω
 フロント/リア/センターチャンネル 1k Ω
 (スーパーウーファ) 5k Ω
 ・入力感度 150mV

■総合

・電源 AC100V 50/60Hz
 ・消費電力 6W
 ・ACアウトレット UNSWITCHED 200W max
 ・寸法(W×H×D) 435×81×363mm
 ・重量 3.9kg
 ・付属品 ビンプラグコード×2

*仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハ ホットライン サービス ネットワークは、本機を末長く、安心してご愛用頂けるためのものです。サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

●保証期間

お買い上げ日より1年間です。

●保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間経過後の修理

修理によって製品の機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料にて修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年（テープデッキは6年）です。この期間は通商産業省の指導によるものです。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●持ち込み修理のお願い

故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのYAMAHA電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

（右欄サービス拠点の所在地と電話番号をご参照ください。）

●製品の状態は詳しく

サービスをご依頼なさるときは、製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また**製品の品名、製造番号**などもあわせてお知らせください。※品名、製造番号は本機背面パネルに表示してあります。

■YAMAHA電気音響製品サービス拠点

（電気音響製品の修理受付および修理品お預かり窓口）

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL(011)513-5036
仙台	〒983 仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL(022)236-0249
東京	〒211 川崎市中原区木月1184 TEL(044)434-3100
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル2F TEL(025)243-4321
松本	〒390 松本市大手2-5-2 中村屋ビル3F TEL(0263)32-5930
浜松	〒435 浜松市西上町911番地 ヤマハ宮竹工場内 TEL(0534)65-6711
名古屋	〒454 名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ名古屋流通センター3F TEL(052)652-2230
京都	〒600 京都市下京区七条通間之町東入材木町483 第2マスイビル TEL(075)361-6470
大阪	〒565 吹田市新芦屋下1-16 千里丘センター内 TEL(06)877-5262
神戸	〒650 神戸市中央区元町2-7-3 ヤマハ神戸店内 TEL(078)321-1195
四国	〒760 高松市丸亀町8-7 ヤマハ高松店内 TEL(0878)22-3045
広島	〒731-01 広島市安佐南区西原2丁目27-39 TEL(082)874-3787
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL(092)472-2134

■お客様ご相談窓口

北海道	〒064 札幌市中央区南10条西1-1-50 ヤマハセンター内 北海道営業所 TEL(011)512-6115
仙台	〒980 仙台市青葉区大町2-2-10 住友生命仙台青葉通ビル4F 東北営業所 TEL(022)223-3101
東京	〒101 東京都千代田区神田駿河台3-4 龍名館ビル4F 首都圏第一営業所 TEL(03)255-5691 首都圏第二営業所 TEL(03)255-2201 神田営業所 TEL(03)255-6767
新潟	〒950 新潟市万代1-4-8 シルバーボールビル 北関東営業所 TEL(025)241-2084
神奈川	〒211 川崎市中原区木月1184 ヤマハ日吉センター内 神奈川営業所 TEL(044)434-4871
浜松	〒433 浜松市幸3-5-8 ヤマハ四ッ池センター内 浜松営業所 TEL(0534)71-1207
名古屋	〒464 名古屋市中区東山通5-65 ヤマハ東山センター内 中部営業所 TEL(052)782-7551
大阪	〒556 大阪市浪速区敷津東1-9-16 ヤマハなんばセンター内 関西営業所 TEL(06)647-6411 日本橋営業所 TEL(06)647-6411 中央営業所 TEL(06)647-6411
広島	〒730 広島市中区紙屋町1-1-20 いぎん広島ビル内 中国営業所 TEL(082)244-3745
九州	〒812 福岡市博多区博多駅前2-11-4 九州営業所 TEL(092)472-2131
本社	〒430 浜松市中沢町10-1 AV機器事業部 お客様ご相談センター TEL(0534)60-3409

ヤマハ株式会社

〒430 浜松市中沢町10-1

AV機器事業部

国内営業部 TEL.(0534)60-3451

生産部品質保証課 TEL.(0534)60-3405

住所および電話番号は変更になる場合があります。

YAMAHA